

日本山岳会 越後支部報

第 43 号

令和7年6月15日
発行 公益社団法人日本山岳会越後支部
発行者 後藤 正弘
新潟県上越市新光町2丁目1-40
TEL・FAX 025-512-7561
広報委員長 諏訪 恵一

私の一枚

八海山避難小屋よりの1枚

雲を抜け尾根上に出れば薄日が射し雲海の世界。下から雲がとめどなく沸き上がり、足元から雲の海、その先には谷川連峰、苗場山が海に浮かぶ小島の様。鞍部では雲が東から西へと音もなく堰を切った様に流れている。そして足元には私が日輪の中に佇むブロッケン現象が現れていた。眼福を得たひと時でした。

2024年10月25～26日 八海山屏風道一新開道コース周回 曇り

撮影者 君 清



持続可能な山岳会をめざそう!! 次世代リーダー育成と登山教室開校

支部長 後藤 正弘

先の越後支部総会で引き続き支部長の任務に就くことになりました。会員の皆さまと共に、もう一歩高みを目指し、挑戦的・創造的でありながらも安全で楽しい山登りと、諸先輩が築き上げた山岳文化の継承普及や山岳環境の保全保護など、重厚で魅力的な山岳会を目指したいと思います。

日本山岳会は本年創立120周年、越後支部は来年初立80周年を迎えます。橋本しをり日本山岳会会長は、会の目的に沿って理念を明文化し、未来への方向性を示しました。

・スローガン「みんなの日本山岳会」
・ビジョン「すべての人に山の楽しさを」

・ミッション①会員による充実したクラブライフを ②挑戦的で創造的な登山の実践と支援 ③山を通して人々の心を豊かに

・ストラテジー(事業戦略) ①安全登山の啓発推進 ②山岳文化の伝承普及 ③山岳環境の保全保護 ④多様化する登山者層へのサポート

・ストーリー ◎山を知り、山を大切に、山の魅力を感じよう ◎山登りを、仲間と一緒に、生涯を通して楽しく続けよう ◎山登りを安全に楽しむために、自立した登山者になろう

3本のストーリーは、物語として理念をわかりやすく示し、会員の日常の

行動指針として作成されたものです。詳細は会報「山」2025年1月号 (No.956)に掲載されています。

歴史と伝統ある越後支部ですが多くの課題があります。この10年くらいで活動が盛んになってきました。しかし、会員142名(準会員2名含む)で年齢構成は逆ピラミッド型、毎年会員は減少しています。60～70歳代が主力であり、60歳以下の会員はわずか13名、女性会員は25名(18%)というのが不都合な真実です。したがって、次世代リーダー育成と新入会員獲得が急務であり、今総会において「リーダー養成講座と登山教室」開催要領を提案し承認されました。その概要は、

○2025年(令和7)～2027年(令和9)の3ヶ年計画で実施。

○初年度は、リーダーの育成に重点をおく。(座学3回と実技2回)

○運営の組織体制は「支部活性化プロジェクト」とし、YOUTH委員会との連携を重視する。

○本部の「特別補助金」による財政援助で実施する。

困難な取り組みですが、避けて通れない課題であり、事業を通して、次世代リーダー育成と若い会員の増進を図りたいと決意しています。

支部会員の皆さまのご支援とご協力をお願いいたします。

追悼 森澤堅次さん

佐竹 信幸

今年の2月3日森澤さんの自宅に伺った。数日前に御息から電話で遊びに来てほしいとの事。当日は退院して自宅療養中で、私を含め山仲間4名で「山談義」、あつと言う間の2時間だった。帰り際に今度私の自作酒で一杯やりましょうと別れた。

その丁度1ヶ月後の3月3日朝に亡くなられた。私はその翌日に約束の自作酒「仁者愛山」を枕元にお供えした。早速御息が封を切り御猪口に注ぎ捧げてくれた。

告別式にはJACからの生花、弔電が披露された。森澤さんは秋田県生まれ、秋田大学鉱山学部を卒業され会津の三菱伸銅に入社、職場山岳会（JAC会員は5名所属）を立ちあげて、ヤブ山、沢、道の無い山を開拓した。会津の12団体山岳会の「会津山岳協会」をまとめ会長を務めた。

山登りの成果として平成6年「山を訪ねて会津の日向山・日鷲山」平成9年4月「嶮峠 会津篇」を出版した。

平成10年には「会津百名山ガイド」主委員となり、リストアップと出版に尽力した。

森澤さんの記憶で忘れられないのは平成9年8月の皇太子殿下「徳仁親王 雅子妃殿下」の磐梯山登山の案内役を務めたことであった。一緒に案内係を務めたのは小荒井実さん（JAC会員）。

登山前日、森澤さんから私に来てみたいなどの電話があり駆けつけた。

弘法清水で「関係者以外立入り禁止」待っていたら江花俊和さん（JAC会員）からあなたは関係者という事で入れてもら

う。下山して来た一行とお会いすることが出来た。

森澤さんからは殿下の御飲みになった「純米大吟醸会津娘」の少しをいただいた。私の一歩の思い出として記憶に残っている。森澤さんは自然保護活動として、只見の「イヌワシ」保護活動を行い、長く環境省の自然公園指導員も務められた。

平成8年からは「万治峠」万治峠学会で学術・紀行を出版している。

自宅には山の本・山関係の民俗資料などが自身で整理したと言っていたがたくさんあり貴重である。

会員ナンバー16894永年会員



日本に3ヶ所残る原三角点の前で
(2016年5月支部総会 米山登山にて)

県境全踏査縦走登山 標識版

吉田 理一

越後支部は昭和41年創立20周年記念の「新潟県境全踏査縦走登山」を総力をあげて実施した。県境を8区に分けて各区の区長の元に班編成をした。この標識版は第4

区只見地区担当区長の伊倉剛三さんが首都圏移住にあたり小出町で経営していた書店「伊倉書林」を閉じる際在庫品を公売したときに入手したものである。何故縦走踏査の現地に設置されずに伊倉さんの元に残っていたのか第4区第2・第3班縦走隊員として活躍した桜井昭吉さんに尋ねたことがある「間に合わなかった」とのことであった。伊倉さんは大正15年生まれ、昭和22年JAC入会、会員番号2849番首都圏移住後はJAC理事を務め昭和46年深田久弥最後の登山となった茅ヶ岳にも同行して最後を看取った。平成14年神奈川県で76歳で亡くなられた。分骨された一部は桜井さんをはじめとする山仲間の手で駒の小屋近くに埋葬された。

この縦走踏査の記録は昭和43年富士波出版社刊越後山岳第6号として発表された。想像を絶するあまりにも壮大な事業に対し深田久弥は「越後衆の鈍と根」と題する巻頭言を寄せている。この事業は新潟日報文化賞に選ばれた。



県境踏査標識版

令和7年度越後支部 総会の開催結果について

事務局長 玉木大二朗

令和7年5月17日（土）、妙高市燕温泉・燕ハイランドロッジにおいて、今年度の日本山岳会越後支部総会を開催した。

開催に先立ち事務局から議決数について、出席者36名、委任状提出者71名、議決数は合計107名であり、支部会則第9条の2により議決権のある支部会員数の140名の過半数を超えていることから、本総会における承認事項の成否は成立することを報告した。

総会での審議事項である第1号議案（令和6年度事業報告・越後支部決算報告）及び第2号議案（令和7年度事業計画・越後支部予算計画）については議案書どおり承認された。

第3号議案（令和7・8年度越後支部役員）については、支部長から役員は互選と



総会参加者全員で記念撮影

するものであるが支部長から推薦させていただき、承認を得たいとの説明の後、支部長推薦に基づき新体制による役員が承認された。

また、その他の承認事項として支部名誉会員に元越後支部事務局長・田邊信行会員を推薦する案件について報告があり、田邊会員が支部事務局長として10年間務められ支部運営に大きく貢献し、自然保護指導員としての長年の実績が評価され支部会則及び支部内規に基づき承認された。

総会後、妙高(関山)の文化財を語る会、川上昭治氏による「妙高山参詣行事の世界」の講演が行なわれた。

妙高山登山は江戸時代から行われ、年間約1000人の登山者数や参詣時の賽銭金額の記録があることや、妙高山信仰の歴史等について紹介され、妙高山登山について大変興味深く拝聴した。



懇親会の様子



総会の様子

総会終了後の懇親会は30名が出席し、夜も更けるのも忘れ支部会員の交流を深めた。越後支部の新しい役員体制が始動され、益々支部活動が活性化するように尽力していきたい。

天気予報では雨という事で心配したが前日の懇親会での美酒の余韻を感じつつ目を覚ますと青空が広がっていた。外に出てみると日差しが暖かい。

朝食を済ませ、まずは橋本正巳名誉会員の先導で昨日の記念講演でお話をお聞きした関山神社・宝蔵院に向かった。

妙高山を御神体とする関山神社を参拝し、隣接する妙高信仰の中心であった宝蔵院跡地の旧関山宝蔵院庭園へ向かった。

庭園は宝蔵院にとって霊山妙高山を礼拝する祭壇であって妙高山そのものであった



二次会も女子は元気

親睦登山報告

たけのやま
関山神社参拝と丈ヶ山登山

諏訪 恵一

現在の庭園は江戸時代後期の姿を再現したもので、正面に妙高山を拝することができるが、残念ながら朝の青空は白い雲に覆われ山容はその中に隠れていた。

その後、伝説と展望の山・丈ヶ山に向かい移動した。

丈ヶ山登山はまず山寺薬師への209段の階段を登ることから始まる。階段の左右には多くの石仏が並ぶ。

本堂には寄木造の薬師如来、釈迦如来、阿彌如来の三体の如来像が安置されている。また、本堂裏には風神洞と呼ばれる風穴あり年中冷風が吹き出して、この風にあたりると身も心も清められ病弱の人も健康に復すると伝えられているという。

登山口へ向かう途中や登山道には伝説にまつわる場所に「寺野の歴史を語る会」現「丈ヶ山ファンクラブ」によって石碑が設置されている。いずれの場所でも語る会の会員でもある後藤正弘支部長からの説明を聞くことができ、山寺伝説への理解が一層深まった。また、現職時代の経験や知見に基づき地すべりの話も大いに参考になった。

猿供養寺跡と地すべり対策の説明の後、いよいよ登山道へと入る。登山道はよく整備されており歩きやすいが、急登の箇所もあり林の中という事もあって昨夜の百薬の長が汗となって噴き出してくる。

登山道には春の花や新緑の木々が季節を感じさせてくれ、また、春日良樹自然保護委員長の解説も山歩きに楽しさを添えてくれた。



旧宝蔵院庭園にて



山寺薬師本堂の如来像

「山頂まで百五十米」の表示で山頂が近いことを知り、歩を進めると50メートルごとに表示が出て、傾斜も緩くなり山頂となる。山頂には山頂標識と



丈ヶ山山頂にて

もにお地藏様(身の丈地藏)と「欲を出さず あなたらしく 生きようよ」と書かれた石碑が設置されていた。

後藤支部長が持参した赤い手編みの帽子をお地藏様にかぶせ、全員で記念写真を撮り、しばし休憩を取った。残念なことにここでも空が白い雲に覆われ、本来であれば観ることのできる妙高や信州の山々は姿を隠し、「展望の山」を満喫できなかつた。

下りは林道へ出て、山ブドウの新芽や独特、タラの芽、シオデ、ウコギなどの誘惑に負けつつ、延命清水で一息ついて山寺薬師へ戻った。

その後、地すべり記念館脇の人柱供養堂に向かった。当地は有数の地すべり地帯で、地すべりを止めるために人柱になった僧の伝説があったが、昭和12年に甕に入った人骨が見つかり伝説が本当であったことが分り、僧を供養するためにお堂が建てられ人骨と甕が安置されていた。

最後に新潟県山岳協会が契約し、田中勉競技委員長が運営する旧山部小学校に設置されたクライミングウォールを見学して解散になった。



クライミングウォール見学

地域の山

笠菅山

多田 政雄

ご紹介したい山は阿賀町にある笠菅山で新潟から見て五頭連峰の裏側にあり三川温泉の直ぐ北側に位置して高さ615mの訪れる人も少ない里山です。

ピークが3つあり南側が609・4mで三等三角点があり、直ぐ下の台地には各TV局の中継用のアンテナが建っています。そこから北西方向に615mの山頂と

言われる最高点があり、また、そこから北側には590mの北峰があります。

以上三つのピーク全体を笠菅山と言います。

笠菅山の見所は残雪期の付近の山々の景色の素晴らしさと特に裏五頭全体の展望の良さです。

一番の見所は天然杉の巨木です。杉の木が雪などで根本付近が複数に枝別れして、地面から高く伸びて奇形の大木になるのを「あがりこ杉」と言います。

三川の将軍杉は現在幹回り日本一ですが、これと同じ形です。三つのピークの間にも多くあります。一本一本見逃さないよう鑑賞して下さい。

登山コース2カ所を紹介します。

一つ目の細越コースは三川温泉から赤谷方面に向かい新谷川の橋を渡る手前の左側にある細越集落に入ります。冬や残雪の有る時には車はここ迄で残りは歩きとなります。

車で林道を行き杉林を過ぎると、右側に栗園が見え、高度190m付近で林道が左に大きくカーブする地点に林道の分岐点があり、右側に細くつなぐ道を進みます。

あり、右側に細くなった道を進み、道の状況を確認して無理のない場所で駐車します。歩き始めると途中で右側に分岐する道も有りますが直進し、直ぐに林道終点となり380m付近で登山道が分岐し、右側へ進みます。

ジグザグの登りになり、目前に大岩が現れ、春先には水が流れています。540mの緩い斜面に出て左方向に向かい少し登ると台地に出ます。周辺に各TV局の中継アンテナが建ち、右側に10m程登ると609・4mの三等三角点のピークがあります。

そこから尾根伝いに15分程行くと最高点の615mの山頂とされるピークに着きます。

三角点などの標識等は無くひっそりとしています。ここで中ノ沢からのコースと合流し、北方面にある北峰に向かいます。

大した高低差もなく途中には多くの天然杉巨木で奇形の、あがりこ杉が多く、十分に楽しめます。

20分程で北峰590mのピークに着きます。天然杉と裏五頭の展望を鑑賞しながら来た道を戻ります。

参考タイムは、登り1時間30分、北峰往復40分程です。

もう一つの、中の沢コースですが、三川温泉から裏五頭方面に向かうと、中ノ沢集落手前にある道路の上を高圧送電線が横断しており、そこから直ぐ右側に林道入口があります。

車を空き地に置き歩くと、少しで堰堤の下を通り左側にある東北電力送電線鉄塔の巡視路に入ります。右側に別荘があり、途中分岐も有りますが、右にゆくと鉄塔などで直進します。

小さな沢に下りて丸木の橋を渡り、登る

と330m付近で44番の鉄塔下を通り30分程登ると430m付近の43番の鉄塔下を通り過ぎます。更に30分程登り540m付近の42番の鉄塔下を通ります。この鉄塔は他と違い色が赤色で、航空法で一定の高さになると赤色にしなければならぬとの事です。此処より尾根は右に曲がり60m程の登りで615mの山頂ピークに着きます。

途中下越の山々、特に五頭連峰が素晴らしく、勿論天然あがりこ杉もあります。

細越から縦走して中ノ沢に周囲もお勧めで、車1台デポして後ほど車回収に行く事でより楽しい山行ができると思います。参考タイムは、登り3時間程です。



あがりこ杉

新入支部会員紹介

昨年度下期に越後支部へ入会された皆さんです。自己紹介をしていただきましたので、支部山行以外でも山でお会いしたらお声をかけをお願いします。

なお、支部入会順に敬称略で紹介いたします。



石津 智子
会員番号17354
第60回全日本登山
大会参加を機に、越
後支部に入会させて

いただきました。入会させていただけたことに感謝いたします。

山への親しみは、白い守門岳で冬を感じていたこと、キャンプ場でのアルバイト、安達太良山の空、鳥海山の姿、自然の中に入ること心身が整っていくのを感じたから。

今では、山に助けられ、力をもらい、多少の困難には動じない私があります。人と自然の魅力に共感できる皆様と豊かな時間を過ごしたいと思っております。



中條 絹枝
会員番号17356
こんにちは！
私は令和3年6月

にずっと前から行きかけた平標山に登りました。その日は最初から辛く、やっと山頂に。山友は現役の看護師さんで「上空頰脈かも？お医者さんにちゃんと行ってね。」と。山友の言う通り。新潟市民病院で手術。手術後、弥彦山にちゃんと登れた時は本当に嬉しかった。ランタン会、そして日本山岳会に出会えてしあわせ♡



島 伸一
会員番号17388
登山歴は高校生の頃からですが、平成11年に地元の豊栄山

岳会に入って本格的に登り始めて26年になります。

印象に残っているのは、二王子岳、門内岳（2泊3日）や蒜場山、大日岳、西俣峰（3泊4日）などです。

年齢は68歳になり、体力的に合宿の重荷を担ぐのは無理になりましたが、私は山で星を見ることが好きで、また山行記録に短歌も載せたりしています。山スキーにも興味があります。どうぞよろしくお願いします。



太子 孝
会員番号17402
新潟県彩山岳会の会長を務めています。還暦の祝いも少し

過ぎましたが宜しく願います。越後の山脈地域を中心に健康と仲間の安全登山を願って楽しい活動に取り組んで行きたいと思っています。

令和7・8年度支部役員体制について

5月17日開催の支部総会にて、次の新役員が決定されました。

- 支部長 後藤 正弘（上越市）
- 副支部長 佐久間雅義（新発田市）
- 副支部長 松井 潤次（小千谷市）
- 事務局長・総務委員長 玉木大二朗（新潟市）
- 理事・総務副委員長 佐藤 博（新潟市）
- 理事・事業委員長 小山 一夫（新潟市）
- 理事・事業副委員長 佐藤レイ子（新潟市）
- 理事・事業副委員長 小林 頼雄（弥彦村）
- 理事・事業副委員長 佐竹 信幸（豊後高田）

- 理事・自然保護委員長 春日 良樹（妙高市）
- 理事・自然保護副委員長 小野寺昭彦（長岡市）
- 理事・自然保護副委員長 井口 礼子（見附市）
- 理事・自然保護副委員長 高畑 悦武（燕市）
- 理事・広報委員長 諏訪 恵一（長岡市）
- 理事・広報副委員長 佐藤 高晴（新潟市）
- 理事・広報副委員長 多田 政雄（新潟市）
- 理事・広報副委員長 大場 勲（新潟市）
- 理事・YOUTH委員長 知野 勇人（新潟市）
- 理事・YOUTH副委員長 原 渉（上越市）
- 理事・県山協委員長 井 春文（南魚沼市）
- 理事・山行委員長 廣井 博行（柏崎市）
- 理事・山行副委員長 多田 和広（新潟市）
- 理事・山行副委員長 渡辺 茂（新潟市）
- 監事 立入 清（上越市）
- 監事 島 伸一（新潟市）
- 顧問 桐生 恒治（見附市）
- 顧問 鶴本 修一（糸魚川市）

今回役員を退任された方々は、理事の松野敬様、和田甲臣様、監事の井口光利様です。長い間支部業務にご尽力いただき感謝申し上げます。

なお、田邊信行様は、支部会則と内規に基づき支部名誉会員として推薦され、理事会で承認されましたのでお知らせします。

- また、専門委員として、総務委員に茂野伸行氏（新潟市）、石津智子氏（新潟市）、中條絹江氏、事業委員に公募登山担当滝沢信子氏（新潟市）、公募医療担当根津洋子氏（小千谷市）、川島万里子（湯沢町）、久保田千歳（小千谷市）、自然保護委員に山

森由枝氏（妙高市）にお願いしました。スノートレッキング同好会長は松井潤次氏（小千谷市）、フォトスケッチ同好会長は遠藤俊一氏（新潟市）、アルパインスキー同好会長は廣井博行氏（柏崎市）です。

令和7年度 活動計画について

- 総務委員会
 - 9月 深沢小学校講演
 - 11月20日 藤島蔵書報告会
 - 12月13日 支部年次晩餐会
- 事業委員会
 - 4月24日 八石山縦走
 - 5月15日 土埋山
 - 6月10日 中ノ俣古道・海前峰
 - 7月25日 第66回高頭祭および第70回松明登山祭
 - 9月 深沢小学校弥彦山登山協力
 - 10月12日 弥彦山フェスティバル
 - 10月30日 牛道（旧宝鉱山道）
 - 11月6日 紅葉の裏巻機溪谷
- 自然保護委員会
 - 6月10日 弥彦山外来種除去
 - 7月25日 高頭祭清掃活動
 - 8月中旬 妙高笹ヶ峰オオハンゴンソウ除去
 - 10月18～19日 日本山岳会自然保護全国集会（妙高大会）
- 広報委員会
 - 6月15日 越後支部報第43号発行
 - 10月15日 越後支部報第44号発行
 - 2月15日 越後支部報第45号発行
- 山行委員会
 - 越後支部ホームページ再構築

6月21日 銚ヶ岳(YOUTH委員会合同)
 8月2-3日 鳥海山(YOUTH委員会合同)
 11月8日 風倉山(YOUTH委員会合同)
○YOUTH委員会

8月31日 図読み講座(支部活性化PT)
 9月21日 救急法講座(支部活性化PT)
 11月22-23日 山の天気ライブ(支部活性化PT)
○越後山岳古道プロジェクト
 6月28日 塩の道西回り
○スノートレッキング同好会
 12月21日 米山(柏崎市) 山域の変更あり
 1月12日 弥彦山(弥彦村)
 2月15日 山本山(小千谷市)
○アルパインスキー同好会
 4月26-27日 鳥海山
 12月25-26日 須原スキー場 総会及スキー技術の向上
 1月18日 東谷山
 2月7-8日 早川谷
 3月8日 守門岳
○フオトスケッチ同好会
 10月5-7日 上高地〜横尾〜澗沢(往復)
 3月27-29日 勝沼IC〜ペンションすずらん(泊)〜牛奥ノ雁ヶ腹摺山〜大菩薩嶺
 山〜ペンションすずらん〜勝沼IC

※計画の1〜3月は令和8年になります。
 計画の詳細や変更は事前に支部ホームページにて案内いたします。

公募登山に参加して

木間 陽子

今回の行先は土埋山。新潟と福島の間境に位置し、山頂に一等三角点があるという

697mの山。
 登山口も登山道も分かりにくく急登が山頂まで続く山だと聞いていたので心配でした。

8時半、山岳会の多田さんが先頭で総勢15名で出発。登りが急になった中腹辺りでストップし、私たちが休んでいる間にそこから100m位までを山岳会の方々が持参したロープを何本も繋げて垂らして下さいました。その命綱のおかげで無事に難所を登りきることができ、左側に飯豊連峰の大日岳の姿を目にすることが出来ました。少し霞んでいたけれど、いつも眺める飯豊とはまた違う姿でした。

10時15分、山頂到着！三角山の特権である360度の見晴らし！18センチ四方の立派な三角点にタッチ！

磐梯山、御神楽岳の他にも山が四方に連なり、それぞれ名前を覚えて頂きました。昼食休憩をゆつくりと記念撮影をして下山の途に就き12時15分無事にスタート地点に到着しました。

思っていたよりも短時間の行程でしたが軟弱な体力と老化した脚力の私には充分過ぎる土埋山でした。

山中で出会った印象に残る樹木や草花は大木のコシアブラとタカノツメ、お浸し美味しかったです！
 ウリハダ



土埋山

カエデの黄色の房状の花、夏エビネらしい葉っぱ、小さい蕾のヒメサユリなどの花を見つけた！
 そしてふっと採り頃のワラビ！ザ・山菜の味！最高でした！

最後に、会員の皆様には毎回個人では行けない山行を計画していただき、道中も安全に全員が歩けるように気くばりして頂きありがとうございました。
 おかげさまで楽しく安心して歩くことが出来ました。



西山日光寺

事務局からのお知らせ

●支部会員動向(令和6年10月〜12月)

- 1 新入会員
 - 島 伸一 (会員番号17388)
 - 太子 孝 (会員番号17402)
 - 玉木 有紀子 (会員番号17478)
 - 山森 由枝 (会員番号17489)
- 2 退会会員
 - 江田 宗友 (会員番号9219)
 - 堀内 岳郎 (会員番号14329)
 - 七澤恭四郎 (会員番号11464)
 - 加藤 義夫 (会員番号12273)
 - 高波 菊男 (会員番号15903)
 - 治田 利治 (会員番号12969)
 - 目崎 貞義 (会員番号12104)

- 3 物故会員
 - 渡邊 正之 (会員番号16144)
 - 森澤 堅次 (会員番号6894)
- 4 支部会員数(令和7年5月現在)
 - 支部会員140名・準会員2名
 - 支部会友 8名

編集後記

今年大型連休中の山岳遭難は203件と記録が残る1994年以降最多で、遭難者数も236人と過去最多だったとのこと。遭難者の年代別では60代が最多の50人で2割超を占め、70代45人、50代41人と会の年齢構成を考えると他人ごとではないように思える。

死亡事故原因の7割が滑落によるものとのこと。行動中の注意もさることながら現在の自身の体力や行動能力をしっかり把握した上で目的の山選び、行動計画策定を行いたいものだ。

また、入山前に登山届を提出した遭難者は全体の26.3%という状況を見ると、山岳会に入り、基礎的な教育や訓練を受ける機会を作ることでも若干でも状況を改善できるような気がする。

今では大半が所有するスマートフォン、位置情報や気象情報をどこでも知ることができ、地図アプリで地形図上に現在位置も表示できる。高齢者の事故を減らすためにも、利活用を進める必要があるだろう。

(諏訪恵一)

